

インタビュー日：平成30年12月7日

将棋棋士・王将 久保利明さん

「心」を極め、そして楽しむ

本日は、17歳で四段に昇段（プロ入り）され、33歳で初タイトル（棋王）。以後、タイトル通算七期獲得。現王将にして竜王戦は1組、順位戦はA級という超一流棋士久保利明王将に大阪弁護士会館にお越し頂きました。

棋士として

—— 久保王将にとって、2018年はどんな年でしたか。

まずは王将戦ですが、最強のリーグ戦を勝ち抜いた挑戦者を迎え撃ち、しかも1局目は大敗でしたから、王将位が防衛できて良かったです。

—— 年初は王将戦、A級6者プレイオフと一時豊島将之^{※1}八段とばかり対局されていましたが、同じ相手との連戦はやりにくいのか、やりやすいのか、どんな感じなのでしょう。

どうしても強い人とはどんどん当たりますから、あまり意識しないですね。連戦になっても「自然体」ですね。

※1 現棋聖・王位の二冠。父は大阪弁護士会豊島茂長会員。

—— そして2018年の後半は、棋聖戦、王座戦そして竜王戦と挑戦者決定トーナメントで惜しいところで負けられたのですが、久保王将に勝れた人が、皆、挑戦者がなられていますね。

それは今言われるまで知りませんでした。棋士は自分が負けるとその棋戦のことは忘れますから。

—— 久保王将は、初タイトル奪取までに苦しまれたかのような印象があるのですが、タイトル奪取につながる契機はあったのでしょうか。

※2 羽生^{※2}さんにタイトル戦で4回負け

※2 羽生善治棋士。2017年に永世七冠を達成し、国民栄誉賞を受賞。1996年には、7大タイトルの全てを同時制覇することも成し遂げた。

て、自分の何が足りないのかと考えました。そこで「心技体」の「心」を鍛えることが必要と思い、そのために護摩行やメンタルトレーナーの話を聞いたりしたのですが、トレーナーが「将棋は全部勝つわけではないでしょう。勝つか負けるかわからないから面白いでしょう」といわれ「楽しむ」という境地が重要と気づきました。現にスポーツの世界では悲壮感を漂わせて闘うよりも、楽しんだ人が結果を残している。そして5度目の挑戦で（このときは羽生さんとは違ったのですが）タイトルをとることができました。

—— 勝負しながら「楽しむ」というのは難しいですね。

いや、相手の絶妙手が出たときな



ど「そんな手があるのか」と感心し、楽しいですよ。

—— そういう心境になると、勝てる、というわけですね。壁であった羽生さんとはどういう人ですか。

棋士の中で一番将棋を楽しんでいる人ですね。

—— 色紙によく「前後際断」と書かれますがこれは座右の銘でしょうか。

そうですね。過去も未来も断ち切って、今できることに集中するという意味です。禅の言葉からでています。人生も同じだと思いますが、将棋で言えば、五手前の手を後悔してはいけません。今に集中することですね。

—— 久保王将はいわゆる羽生世代の5歳下ですが、将棋界は、上に羽生さん、下に藤井聡太七段^{※3}ですね。

※3 5人目の中学生棋士、現在16歳。数々の記録を打ち立てている。

藤井君はずっと下ですけどね。

—— 藤井七段は過去の天才とは違いますか。

期待されて記録も残している。皆が注目している棋士であることは違いありません。ただ、私自身はまだ対局していません。当たってからですね。

将棋ブームと普及活動

—— 今は、空前の将棋ブームと言われますが、感じられますか。

それは感じますね。どこでも人が増え、しかも、将棋教室もはいりきれないと聞きます。藤井君が出てきて、彼が「将棋を指すこと」自体が普及にもなっています。

—— かつて「斜陽産業」(2006年の糸谷八段の言葉)と言われましたね。

僕らの時は、羽生七冠誕生で将棋ブームを経験していますが、(糸谷さ

んら)若い人はブームを経験していませんですからね。

—— 久保王将は、今の将棋ブームの前から普及にも力を入れて来られましたが、それは何か理由があるのでしょうか。

棋士会の役員になり、30代になって人のつながりが増え、「将棋まつりを復活してほしい」という声をよく聞きました。自分もそう思っていましたのでそこで「将棋まつり」を復活させようと思ったのがはじめです。

—— 久保王将は、普及など、将棋の勉強以外に時間を取られながら、それでなおかつ実績を残されていますね。

夜は自分の時間はあり、研究の時間はあります。プレイヤーとしては将棋だけやってもいいのですが、しかしそれで結果を残して何なのかと思います。師匠^{※4}からは「自分一人だけで強くなったわけでないよ」といわれ、恩返し^{※4}の気持ちで、弟子をとり、また普及に力をいれています。

—— 久保王将も将棋界ではベテランと呼ばれる世代になられてきましたが、若い時とここが違うということはあるのでしょうか。

意識が変わったことはないですね。マイナーチェンジくらいで、また一貫して「振り飛車党」^{※5}です。棋士人生で一度負け越したときに、スタイルを変えたが戻しました。変えなくて良かったと思っています。

—— 一貫して「振り飛車党」というその理由は何でしょうか。

人のやらないことをやるために将棋

※4 淡路仁茂九段。

※5 飛車を元の位置から横に移動させる戦法のこと。プロ棋士の間では少数派である。

界に入ったからですね。「角換わり」^{※6}ばかりでは面白くないでしょう。「振り飛車」で勝つのが面白い。

映画出演について

—— 映画にもよく出ておられますが（『3月のライオン』、『泣き虫しよったんの奇跡』）俳優のご感想は。

「よく」というほどではないんですが、いい経験でした。役者の方の凄さを感じました。

—— とくに、『泣き虫しよったんの奇跡』では、まずご自身の敗戦役で出られますがこれはどういう心境でしょうか。

不思議な感覚ですね。6番勝負の方は別の方がされたのですが、撮影に2日かかると言われ、2日は日がとれないので、1日だけとなり、そして「負け役」のほうが回ってきたのです。「勝つ方やらしてよ」と思いましたが（笑）。

—— そういう理由でしたか。その「しよったん（瀬川晶司氏）^{※7}」の試験官に選ばれたことについて、すんなり引き受けられたのでしょうか。

いやあ、それは色々ありましたよ。私の棋士人生で、公式戦ではないのですが、「勝って当然」という中で、一番プレッシャーのかかった対局でした。

—— 将棋ファンとしては面白い企画で、久保A級八段はまず勝つだろうと思っていましたが、そういうプレッシャーのかかる中で勝たれたのは凄いですね。

いい経験になりました。ファンの

方は面白いかもしれないが僕は全然面白くない（笑）。

AIについて

—— 将棋コンピュータソフトAI登場時、当初はAIについてどう思われましたか。

いずれは出てくると思っていましたが、それは私が引退する頃にどうにかくらいだろうと思っていました。

—— 今はAIの実力についてはどう思われますか。

もう勝てないですね。

—— 久保王将はAIは使われるのでしょうか。

自分の指した対局をソフトにいわせてその評価がマイナスの部分を研究するという使い方ですね。若い人のようにソフトから新戦法を取り入れるような使い方はしていません。

—— AIは振り飛車の評価は低いですが、それについてはどう思われますか。

振り飛車が有利とか、不利とか、そういうことを言えるほど自分は強くない。今のソフトも強いですが完全ではない。振り飛車の評価が変わりうる可能性は残っている、と考えています。

—— 客観的に今やAIが強い中で「棋士」の意義はどこにあるのでしょうか。

人間はミスをする。そこにドラマがある。ギリギリの攻防の中で、勝つか負けるかが面白い。そこを見てほしいですね。

—— 将来、人間とAIの関係についてど

う思われますか。

将棋界にとってはAIは脅威でしたが、今はうまく共存しています。AIによって人間がとって変わられる可能性もありますが、うまく共存できる社会になってほしいと思いますね。

将棋上達法など

—— アマチュア将棋ファンからよく聞かれると思いますが「将棋に強くなる方法は？」

「熱意」ですね。知り合いで77歳で将棋を覚え、80歳で初段になられた方がおられます。毎晩棋譜を並べられたそうです。

—— 「詰将棋がいい」とかというような手段ではなく、気持ちや精神を大事にされるのが久保王将らしいですね。

そうですね。「心技体」と言いますが、まず「心」が頭に来ています。それには意味があると思っています。極めた人は結局みなそこに行き着く。

—— 「弁護士」についてはどんな印象をお持ちでしょうか。

お付き合いさせて頂いている弁護士さんは皆さん将棋好きの方が多いです。職業柄考えることの多い仕事でしょうし、物事を組み立てていくところなど将棋と近いのかと思います。

—— 王将戦が始まりますが防衛に向けて頑張ってください。本日は有難うございました。

（インタビュー：大川 一 夫
阿部秀一郎
写真撮影：高 広 信 之）

※6 開始早々に互いの角を交換する戦法。プロ棋士の間では流行の戦型である。

※7 プロになるには奨励会（プロ養成機関）で勝ち抜く必要があるが年齢制限がある。奨励会を年齢制限で退会した後、特例によって2004年に実施されたプロ編入試験に合格し、棋士となった。現六段。久保王将はその時の編入試験の対局相手の一人。

王将戦第2局は高槻市で開催！

第68期王将戦7番勝負（スポーツニッポン新聞社・毎日新聞社主催）は久保利明王将対挑戦者渡辺明棋王となりましたが、**第2局は1月26日・27日に摂津・山水館**で行われ、併せて前夜祭と大盤解説会が開催されます（場所はいずれも高槻現代劇場文化ホール・問合せ：高槻市役所文化イベント係）